

テントの輸入

令和 2 年 9 月 16 日
横 浜 税 関

2019 年の
全国の輸入数量・金額は、過去最高
横浜港の輸入数量・金額も増加



はじめに

ソロキャンプ、おうちキャンプ、平日キャンプ、オートキャンプ、グランピングと、三密を回避しながらできる外のレジャーとしても人気上昇中のキャンプ。ここ数年、キャンプを楽しむ人の層も、楽しみ方も増えてきました。

1990 年代、アウトドアの一大ブームが起こり、RV 車 (Recreational Vehicle) に乗って、家族でオートキャンプ場へ行き、野外クッキングをしたり、テントの中でくつろいだり、自然を満喫した人も多いのではないのでしょうか。そして、ここ数年、家族やグループで、他人に気を使うことなくソロで、一人ひとりテントを持ち寄ってグルソロ (グループ+ソロ) で、と色々な形でキャンプが楽しまれています。

キャンプといえば、テント。わくわくした気分で、非日常を体験できる大切な住空間。最近は軽量で組み立てやすく、丈夫で高品質なものが増えているそうです。

テントの輸入は、全国では 1990 年代半ばをピークに減少し、その後横ばいが続いていましたが、近年は数量では 2016 年以降 4 年連続の増加、金額では 2009 年以降 11 年連続の増加となっており、2019 年は数量・金額ともに過去最高を記録しました。

横浜港でも、1990 年代半ばをピークに減少しましたが、2019 年は数量・金額は約 2 倍に増加しました。

今月は、好調に推移している「テントの輸入」について特集します。

本特集の「テントの輸入」は、以下の統計品目番号をとりまとめたものです。

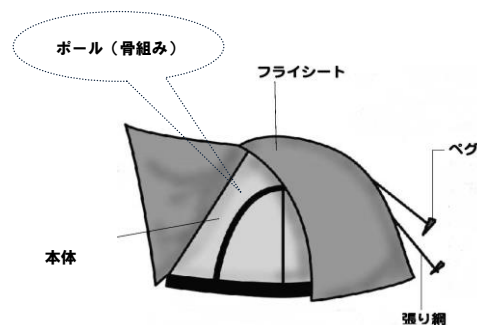
(1988 年～2006 年)

- 6306. 21-000 綿製のもの
- 6306. 22-000 合成繊維製のもの
- 6306. 29-000 その他の紡織用繊維製のもの

(2007 年以降)

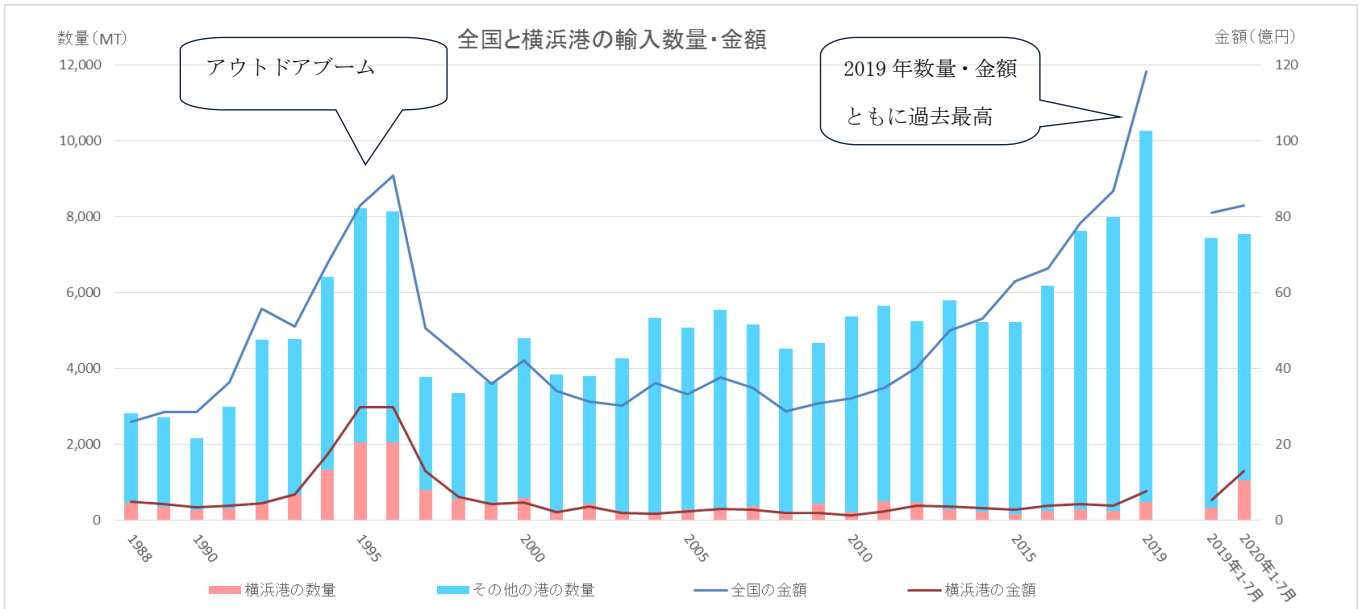
- 6306. 22-000 合成繊維製のもの
- 6306. 29 その他の紡織用繊維製のもの
 - 100 綿製のもの
 - 900 その他のもの

- ・1988 年より前は、「テント」を特定できる統計品目番号はありません。
- ・「過去最高」とは、1988 年の統計品目改正後のデータを基礎として比較したものです。



輸入動向

全国の輸入動向は、グラフのとおり、1991年から数量・金額が増加し、1995年～96年をピークに減少しましたが、2016年以降、再び数量・金額ともに大きく増え、2019年は全国で過去最高を記録しました。業界によると、ソロキャンパーの増加やグランピング用の常設テント、また遮光性・耐候性・居住性に優れた高機能なテントの需要が高まり、数量・金額ともに増えているとのことです。

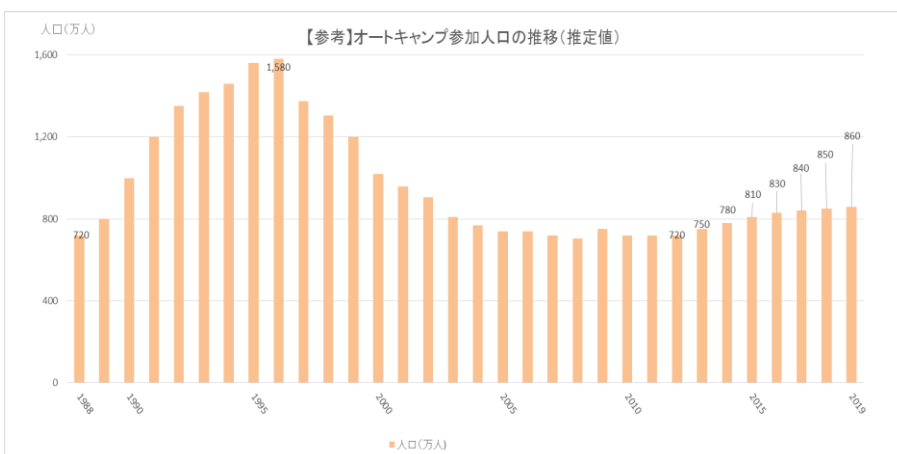


参考ですが、下のグラフ「オートキャンプ参加人口の推移」でも1995～96年がピークになっており、近年では緩やかではありますが増加しています。

業界によると、1990年代は、週休二日制の導入もあり、「オートキャンプ」が人気を博しました。その後、ブームが去り、マーケットはしぼんでいきましたが、2010年代後半から徐々にマーケットは拡大しているとのことです。

これは、①1990年代のアウトドアブーム時にキャンプを経験した子どもたちが親となり、家族や友人と再度キャンプをするようになったこと、②漫画や芸能人のソロキャンプ動画によって影響を受けた層がキャンプをするようになったこと、③ネット通販の拡大により、手軽にキャンプ用品を購入できるようになったこと、④スマホの普及により、キャンプの様子をSNSにアップして、世界中にその

情報を拡散し、多くの人たちと楽しさを共感できるようになったこと等から、幅広い層の人がキャンプを楽しむようになったためとみえています。



(一社) 日本オートキャンプ協会より

原産国別の輸入シェア

2019年は、全国では32カ国、横浜港では15カ国を原産国とするテントが輸入されました。原産国別の輸入実績は、中国が全国・横浜港ともに、数量・金額で第1位となっています。ベトナムがこれに続いており、この2カ国で約9割のシェアを占めています。

中国が最大の原産国ですが、より安い国を求めて、また「チャイナ・プラスワン」として、ベトナムやバングラデシュ等にテントの生産工場が分散しつつあります。

全 国

2019年

国名	数量		輸入額	
	(トン)	構成比	(百万円)	構成比
中国	7,955	77.5%	8,283	69.9%
ベトナム	1,358	13.2%	2,047	17.3%
バングラデシュ	499	4.9%	522	4.4%
韓国	91	0.9%	175	1.5%
ベルギー	62	0.6%	149	1.3%
その他	301	2.9%	666	5.6%
計	10,266	100.0%	11,842	100.0%

横浜港

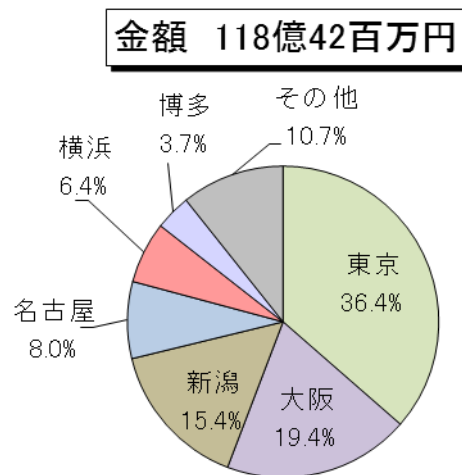
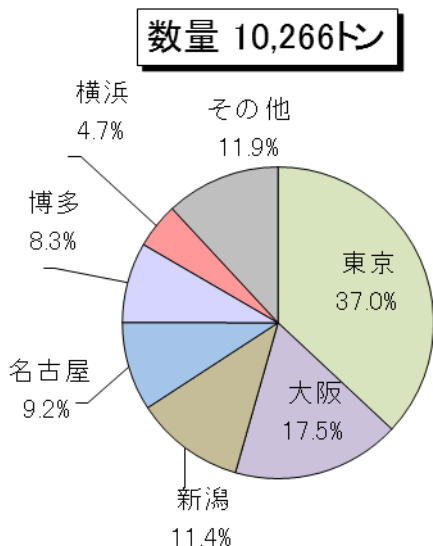
2019年

国名	数量		輸入額	
	(トン)	構成比	(百万円)	構成比
中国	409	84.5%	587	77.4%
ベトナム	42	8.8%	81	10.7%
韓国	12	2.4%	37	4.8%
バングラデシュ	6	1.3%	19	2.5%
台湾	7	1.4%	12	1.6%
その他	8	1.6%	22	3.0%
計	484	100.0%	759	100.0%

港別の輸入シェア

2019年のテントの港別輸入シェアは、以下の円グラフのとおりです。これら港での輸入が多い理由は、港の近くにキャンプ用品メーカーやその倉庫があり、メーカーがそこを物流拠点としていること等によるものです。

また、横浜港は、コンテナ貨物を仕分けしたり、全国各地の店舗や倉庫へ国内輸送したりする際の手配が素早く、スムーズなので物流拠点として利便性が高いとのこと。



今後の見通し

業界では、テントの輸入について

- ① 幅広い層の人が様々な目的をもって、冬キャンプを含めオールシーズンでキャンプを楽しんでいること
- ② 設備の整った快適なキャンプ場が増えていること
- ③ 新型コロナウイルスの影響で外出自粛が広がる中、三密を避けながら楽しめる数少ないレジャーとして、キャンプやグランピングが盛況であること
- ④ リモートワークの普及で、ワーケーションという新しい働き方が注目を浴び、人と自然が近い距離で過ごすことが多くなれば、キャンプに対する関心は高くなること
- ⑤ 野外フェスティバルや防災への備えとしても需要がある等、テントの用途の多様化が進んでいること

等から、国内におけるアウトドア用品の需要は今後も伸びていくと見込まれており、テントの輸入は引き続き増加傾向で推移していくとみています。



写真提供：(一社) 日本オートキャンプ協会

〈取材協力〉 キャンパルジャパン (株)、コールマンジャパン (株)、サイボー (株)、(一社) 日本オートキャンプ協会、
(公社) 日本キャンプ協会・静岡県立朝霧野外活動センター、(株) ニューテックジャパン (五十音順)

【この資料に関する問い合わせ】

横浜税関 調査部 調査統計課 Tel 045-212-6100 (直通)
〒231-8401 横浜市中区海岸通 1-1 (横浜税関 本関庁舎 1階)
<http://www.customs.go.jp/yokohama/>

本資料を他に転載するときには、横浜税関の資料による旨を必ず注記して下さい。

テントのミニ知識



キャンプ＝テントというくらい、キャンプでよく使うのがテントです。キャンプの普及と指導者の育成を図る（公社）日本キャンプ協会によると、「大自然の中で、テントは大切な住空間、キャンプの楽しさや健康管理はテント次第！」だそうです。ポイントは、「美しく張ること」。たるんでいたり、傾いていたりすると雨や風に弱くなります。テントのテンション（張力）をしっかりとって美しく張ることが強さの秘訣です。

テントを設営する場所は安眠できる環境と安全が第一です。右図に揚げるポイントを避けて、更に周りのルールやモラルを守って、設営場所を選びましょう。

普段住んでいる家と同じで、キャンプではテントがしっかりできていれば、心も体もしっかりと休むことができます。

テントを張ってはいけない場所

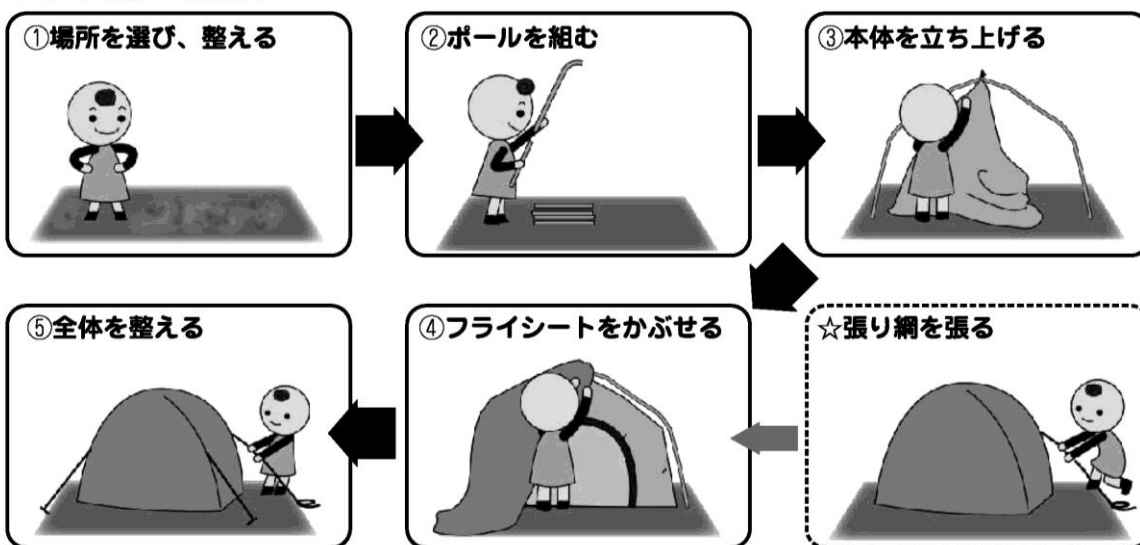
強風の吹くところ
(飛ばされる危険)

ガケの下
(落石の危険)

木の下
(落雷、倒木の危険)

中州や河原
(増水や鉄砲水の危険)

テント設営の流れ



参考文献：（公社）日本キャンプ協会資料

テントの輸入に係る各種データ ※2020年は9桁速報値、その他は確定値

1. 全国と横浜港の輸入実績推移

年	全 国					横 浜 港						
	数 量 (KG)	前年比	金 額 (千円)	前年比	通関単価 (円/KG)	数 量 (KG)	前年比	全国比	金 額 (千円)	前年比	全国比	通関単価 (円/KG)
1988	2,826,702	-	2,601,917	-	920	451,235	-	16.0%	487,316	-	18.7%	1,080
1989	2,720,349	96.2%	2,853,556	109.7%	1,049	360,433	79.9%	13.2%	422,134	86.6%	14.8%	1,171
1990	2,159,655	79.4%	2,854,521	100.0%	1,322	265,935	73.8%	12.3%	334,000	79.1%	11.7%	1,256
1991	2,992,882	138.6%	3,650,289	127.9%	1,220	309,913	116.5%	10.4%	377,129	112.9%	10.3%	1,217
1992	4,767,671	159.3%	5,567,174	152.5%	1,168	439,859	141.9%	9.2%	446,825	118.5%	8.0%	1,016
1993	4,776,356	100.2%	5,107,359	91.7%	1,069	681,456	154.9%	14.3%	671,674	150.3%	13.2%	986
1994	6,417,159	134.4%	6,796,137	133.1%	1,059	1,337,015	196.2%	20.8%	1,749,786	260.5%	25.7%	1,309
1995	8,226,466	128.2%	8,309,047	122.3%	1,010	2,047,983	153.2%	24.9%	2,969,431	169.7%	35.7%	1,450
1996	8,130,959	98.8%	9,081,433	109.3%	1,117	2,052,585	100.2%	25.2%	2,971,938	100.1%	32.7%	1,448
1997	3,781,999	46.5%	5,075,668	55.9%	1,342	788,402	38.4%	20.8%	1,306,568	44.0%	25.7%	1,657
1998	3,362,657	88.9%	4,348,535	85.7%	1,293	554,208	70.3%	16.5%	608,667	46.6%	14.0%	1,098
1999	3,642,233	108.3%	3,594,897	82.7%	987	417,229	75.3%	11.5%	416,375	68.4%	11.6%	998
2000	4,789,907	131.5%	4,212,212	117.2%	879	589,391	141.3%	12.3%	476,735	114.5%	11.3%	809
2001	3,835,126	80.1%	3,412,566	81.0%	890	208,705	35.4%	5.4%	217,974	45.7%	6.4%	1,044
2002	3,808,074	99.3%	3,130,017	91.7%	822	434,372	208.1%	11.4%	354,493	162.6%	11.3%	816
2003	4,272,883	112.2%	3,016,340	96.4%	706	188,385	43.4%	4.4%	182,346	51.4%	6.0%	968
2004	5,333,760	124.8%	3,611,537	119.7%	677	150,599	79.9%	2.8%	171,113	93.8%	4.7%	1,136
2005	5,078,633	95.2%	3,322,530	92.0%	654	285,044	189.3%	5.6%	237,901	139.0%	7.2%	835
2006	5,544,868	109.2%	3,765,148	113.3%	679	319,730	112.2%	5.8%	305,729	128.5%	8.1%	956
2007	5,163,043	93.1%	3,480,583	92.4%	674	371,715	116.3%	7.2%	285,818	93.5%	8.2%	769
2008	4,517,530	87.5%	2,875,166	82.6%	636	202,086	54.4%	4.5%	186,452	65.2%	6.5%	923
2009	4,665,823	103.3%	3,095,823	107.7%	664	426,558	211.1%	9.1%	201,312	108.0%	6.5%	472
2010	5,368,338	115.1%	3,205,821	103.6%	597	216,157	50.7%	4.0%	126,529	62.9%	3.9%	585
2011	5,660,642	105.4%	3,486,690	108.8%	616	503,214	232.8%	8.9%	235,272	185.9%	6.7%	468
2012	5,248,676	92.7%	4,016,754	115.2%	765	478,340	95.1%	9.1%	377,026	160.3%	9.4%	788
2013	5,792,103	110.4%	5,002,585	124.5%	864	278,932	58.3%	4.8%	355,218	94.2%	7.1%	1,273
2014	5,235,044	90.4%	5,313,322	106.2%	1,015	214,077	76.7%	4.1%	325,412	91.6%	6.1%	1,520
2015	5,232,414	99.9%	6,301,527	118.6%	1,204	152,955	71.4%	2.9%	281,862	86.6%	4.5%	1,843
2016	6,177,867	118.1%	6,645,466	105.5%	1,076	253,865	166.0%	4.1%	392,046	139.1%	5.9%	1,544
2017	7,621,160	123.4%	7,836,643	117.9%	1,028	286,008	112.7%	3.8%	433,156	110.5%	5.5%	1,514
2018	8,001,240	105.0%	8,689,010	110.9%	1,086	246,005	86.0%	3.1%	380,925	87.9%	4.4%	1,548
2019	10,266,012	128.3%	11,842,458	136.3%	1,154	483,908	196.7%	4.7%	758,576	199.1%	6.4%	1,568
2019年1-7月	7,437,085	-	8,111,276	-	1,091	335,961	-	4.5%	539,011	-	-	1,604
2020年1-7月	7,546,801	101.5%	8,309,866	102.4%	1,101	1,063,422	316.5%	14.1%	1,301,488	241.5%	15.7%	1,224

2. 原産国別輸入実績 (2019年)

国 名	全 国					横 浜 港					
	数 量 (KG)	構成比	金 額 (千円)	構成比	通関単価 (円/KG)	国 名	数 量 (KG)	構成比	金 額 (千円)	構成比	通関単価 (円/KG)
全 世 界 (32カ国)	10,266,012	100.0%	11,842,458	100.0%	1,154	全 世 界 (15カ国)	483,908	100.0%	758,576	100.0%	1,568
中 国	7,955,228	77.5%	8,282,784	69.9%	1,041	中 国	408,679	84.5%	586,868	77.4%	1,436
ベトナム	1,358,487	13.2%	2,047,471	17.3%	1,507	ベトナム	42,411	8.8%	81,051	10.7%	1,911
バングラデシュ	498,925	4.9%	522,000	4.4%	1,046	韓 国	11,791	2.4%	36,709	4.8%	3,113
韓 国	90,516	0.9%	174,763	1.5%	1,931	バングラデシュ	6,251	1.3%	19,245	2.5%	3,079
ベルギー	62,066	0.6%	149,401	1.3%	2,407	台 湾	6,832	1.4%	12,285	1.6%	1,798
そ の 他	300,790	2.9%	666,039	5.6%	-	そ の 他	7,944	1.6%	22,418	3.0%	-

3. 港別輸入実績 (2019年)

港 名	数 量 (KG)	構成比	金 額 (千円)	構成比	通関単価 (円/KG)
全 国	10,266,012	100.0%	11,842,458	100.0%	1,154
東 京	3,794,337	37.0%	4,314,251	36.4%	1,137
大 阪	1,792,773	17.5%	2,294,610	19.4%	1,280
新 潟	1,169,765	11.4%	1,822,572	15.4%	1,558
名 古 屋	948,312	9.2%	944,443	8.0%	996
横 浜	483,908	4.7%	758,576	6.4%	1,568
博 多	854,288	8.3%	438,669	3.7%	513
そ の 他	1,222,629	11.9%	1,269,337	10.7%	-